

# 城の石垣発見以後の坂本城

2025年6月8日 坂本城を考える会講演資料  
大津市文化財保護課 岡田有矢

## 1. はじめに

大津市下阪本に位置する坂本城は、明智光秀の居城として有名であるが、たったの15年程度で廃城となり、その後は痕跡を残さない幻の城とされていた。

発掘調査によって確認された坂本城の遺構は、琵琶湖岸にある湖中石垣と昭和54年度に確認された本丸屋敷地跡のみであったが、令和5年度に大津市が行った発掘調査において、坂本城の外郭と思われる堀や石垣が発見された。このことにより、坂本城の真の姿が少しずつ判明しつつある。そんな坂本城跡を未来永劫適切に保存していくため、大津市では国史跡指定を目指している。

## 2. 坂本城（跡）について

### ・坂本城築城以前

坂本城のある大津市下阪本は、古くから交通の要衝であった。14世紀には、北国・東国からの物資を荷揚げする港町として繁栄し、荷揚げされた物資を京都へ運ぶ馬借・車借といった運送業者が多数存在していた記録が残る。

⇒室町時代の下阪本は、日本でも有数の港町！

発掘調査において、短冊状の町屋が確認されている。

⇒その港町の管理は比叡山延暦寺か？？

### ・志賀の陣

元亀元年（1570年）9月16日～ 織田 VS 浅井・朝倉連合軍（延暦寺）

宇佐山城主森可成が応戦 戦場は下阪本か？

⇒京への侵攻を阻止するも討死に

⇒その後、浅井・朝倉連合軍は比叡山に立て籠もり

織田信長、比叡山焼き討ちする旨を通達（元亀元年9月24日）するも、約1年無視される ⇒元亀二年9月12日、比叡山焼き討ちを決行

### ・坂本城の築城

『兼見卿記』 吉田兼見

元亀三年閏正月六日の記述「明十於坂本而普請也。」

他にも「城中天主作事」、「小天主」といった坂本城に関する記述あり。

『日本史』 ルイス・フロイス

「豪壮華麗」「明智の城ほど有名なものは天下にない」等の記述。

- ・坂本城の廃城

天正十年（1582年）山崎の戦い後、秀吉軍に包囲され、天主焼失  
⇒その後、丹羽長秀により再建される

- ※秀吉は坂本城を取ると天下を狙っているように思われることから、わざと丹羽長秀に坂本城主を譲ったという趣旨の手紙あり  
⇒その後も秀吉は度々坂本城を訪れる記述あり  
⇒賤ヶ岳の戦いの戦後処理は坂本城で行っている

天正十三年（1585年）11月以降、秀吉が坂本城を訪れる記述が消える  
⇒その後、大津へ訪れる記述が増える→大津城築城か

- ・坂本城廃城後

『近畿歴覧記』「三井行程」黒川道祐

延宝六年（1666年）

「七本柳ノ二町程北ノ湖辺ニ明智日向守光秀ガ城跡アリ」の記述

⇒廃城約80年後には、痕跡もわからない状態

『近江輿地志略』「東坂本城址」寒川辰清

享保十九年（1734年）

「今の東南寺今津堂の地是なり。織田信長山門責て坂本浜に城を築き、明智日向守光秀これを守らしむ。（中略）其跡に一寺を建、今の今津堂是也。古城地の時の石垣今に存す。」の記述

⇒東南寺が坂本城跡という記述

「今の大津の町は坂本の民家を引移せる也。坂本の城を大津に移しし時、人家も亦従うて移る。小唐崎、絶間町（大間町）今に其跡坂本にあり是明証也。」の記述も

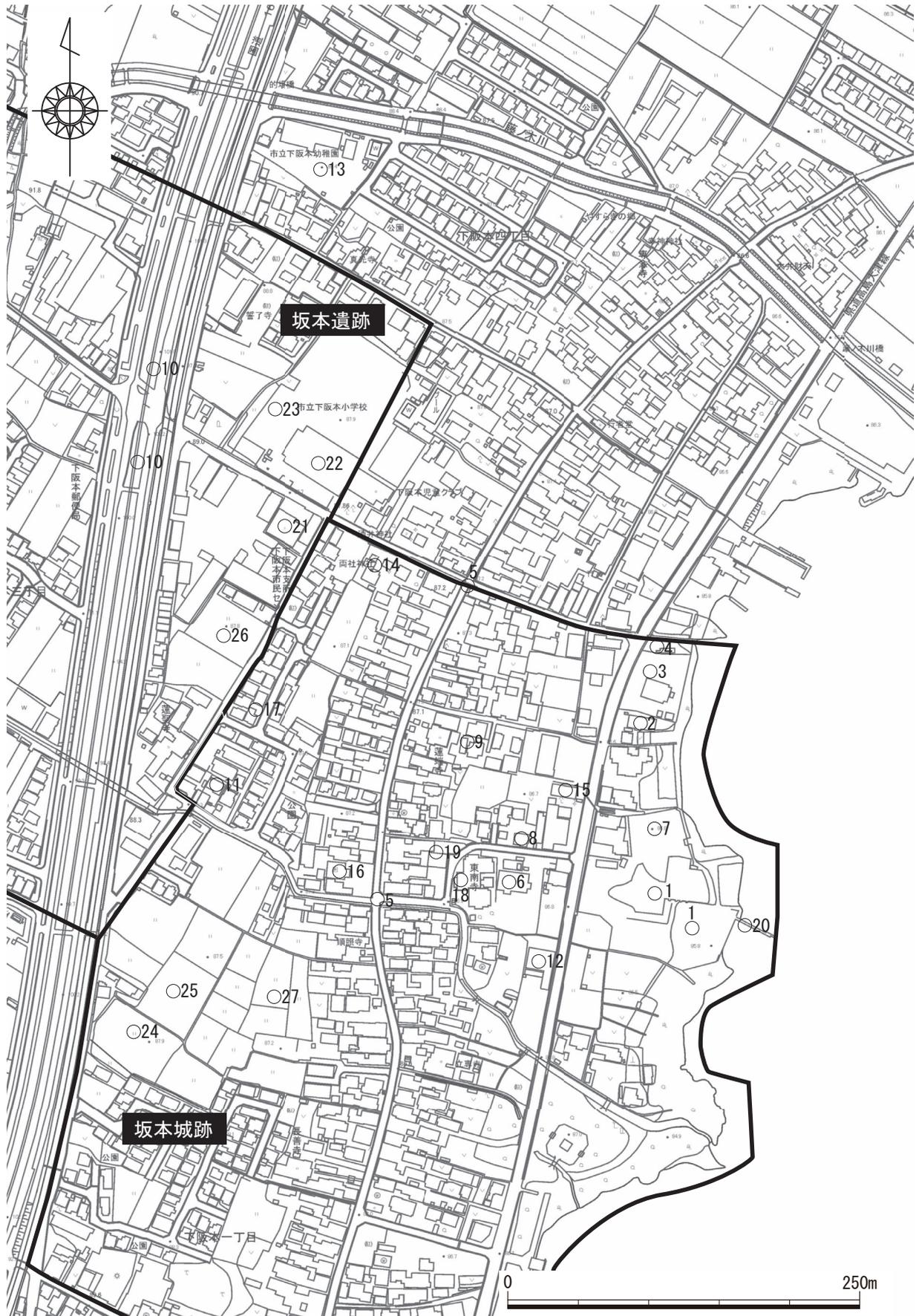
⇒下坂本の町名と大津の町名が一致するのは、坂本城下町がそのまま大津城下町へ移転したから

### 3. 発掘調査の成果

推定坂本城跡内における発掘調査は計24回実施。その内、坂本城に関する遺構が発見されたのは2例のみ。

第1表 坂本城周辺の発掘調査履歴

番号	調査年度	調査原因	検出遺構	備考
1	昭和 54 ~ 57	宅地造成	礎石建物、石組井戸、石組溝等 (16 c 後半) 土師器、輸入陶磁器、瓦等出土	大津市教育委員会 2008『坂本城跡発掘調査報告書』
2	昭和 55	確認調査	近代の石垣、礎石建物 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
3	昭和 55	確認調査	遺構なし、土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
4	昭和 55	確認調査	遺構なし、土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
5	昭和 55	立会調査	遺構なし	未報告
6	昭和 55	確認調査	遺構なし?土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
7	昭和 55 ~ 56	確認調査	礎石、石垣? 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
8	昭和 56	作業所建設	石組溝、礎石 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
9	昭和 57	個人住宅建築	遺構なし 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
10	昭和 57	バイパス建設	短冊状の町屋遺構 (15 c 後半~ 16 c 前半) 土師器、輸入陶磁器等出土	大津市教育委員会 1989『坂本遺跡発掘調査報告書』
11	昭和 58	宅地造成	礎石建物ほか (15 c ~ 16 c) 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
12	昭和 58	倉庫建設	掘立柱建物 (15 c 末~ 16 c) 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
13	昭和 59	幼稚園移転	遺構なし 近世の遺物出土	未報告
14	昭和 59	神社改修	遺構なし 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
15	昭和 60	個人住宅建築	「L」字状の石垣 土師器、輸入陶磁器等出土	大津市教育委員会 2008『坂本城跡発掘調査報告書』(一部報告あり)
16	昭和 60	事務所建設	上層: 江戸時代の石組溝 下層: 礎石建物 (15 c ~ 16 c か)	未報告
17	昭和 63	宅地造成	石組井戸、コロガン根太の建物、礎石建物 (16C 後半) 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
18	昭和 63	立会調査?	石垣	一部報告
19	平成 2	個人住宅建築	遺構なし 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
20	平成 6	琵琶湖渇水	湖中石垣の調査 土師器、輸入陶磁器等出土	滋賀県教育委員会 1996『織豊期城郭基礎調査報告書』1
21	平成 7	支所増築	3面の遺構面あり 礎石、石組井戸等 (15 c ~ 16 c) 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
22	平成 10	小学校建設	4面の遺構面あり 礎石建物、石組井戸等 (15 c ~ 17 c ?) 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
23	平成 28	グラウンド拡張	3面の遺構面あり 礎石、石組井戸等 (15 c ~ 16 c 前半) 土師器、輸入陶磁器等出土	大津市教育委員会 2018『坂本遺跡発掘調査報告書』
24	平成 30	宅地造成	堀、石組井戸等 (15 c ~ 16 c 前半) 土師器、輸入陶磁器等出土	大津市教育委員会 2020『坂本城跡発掘調査報告書』
25	令和元	宅地造成	石組井戸、方形石組等 (15C ~ 16 c 前半) 土師器、輸入陶磁器、水晶片等出土	大津市教育委員会 2021『坂本城跡発掘調査報告書』
26	令和 4	宅地造成	道路、方形石組等 (15C ~ 16 c 後半) 土師器、輸入陶磁器等出土	未報告
27	令和 5	宅地造成	堀、礎石建物等 (16 c 後半) 土師器、輸入陶磁器、瓦等出土	一部報告



第1図 周辺の発掘調査地点

● 昭和54年度調査

宅地造成工事計画に伴い、約4000㎡を発掘調査を実施。礎石建物、石組井戸などを検出。鯨瓦を含む瓦類が出土し、焼土も見つかったことから、坂本城跡の本丸跡と推定（屋敷地または御殿か）。報告では、焼土層の上下にて遺構が確認できることから、上層遺構を丹羽以降の坂本城遺構、下層を明智期の坂本城遺構と推測。焼土層は山崎の戦い後の坂本城焼失によるものとした。

出土した遺物から、遺構の時期は16世紀後半と推測される。瓦には長岡京市の勝竜寺城と同范のものがあり、織田政権における同一瓦工房の存在が示唆される。また、近年の科学的分析により、坂本城焼失による瓦の変色の他、当初から赤褐色をした瓦が一定数存在することが判明した。

⇒大津市では、この調査事例と周囲の地形や地名等から、坂本城の範囲（縄張り）を想定した。

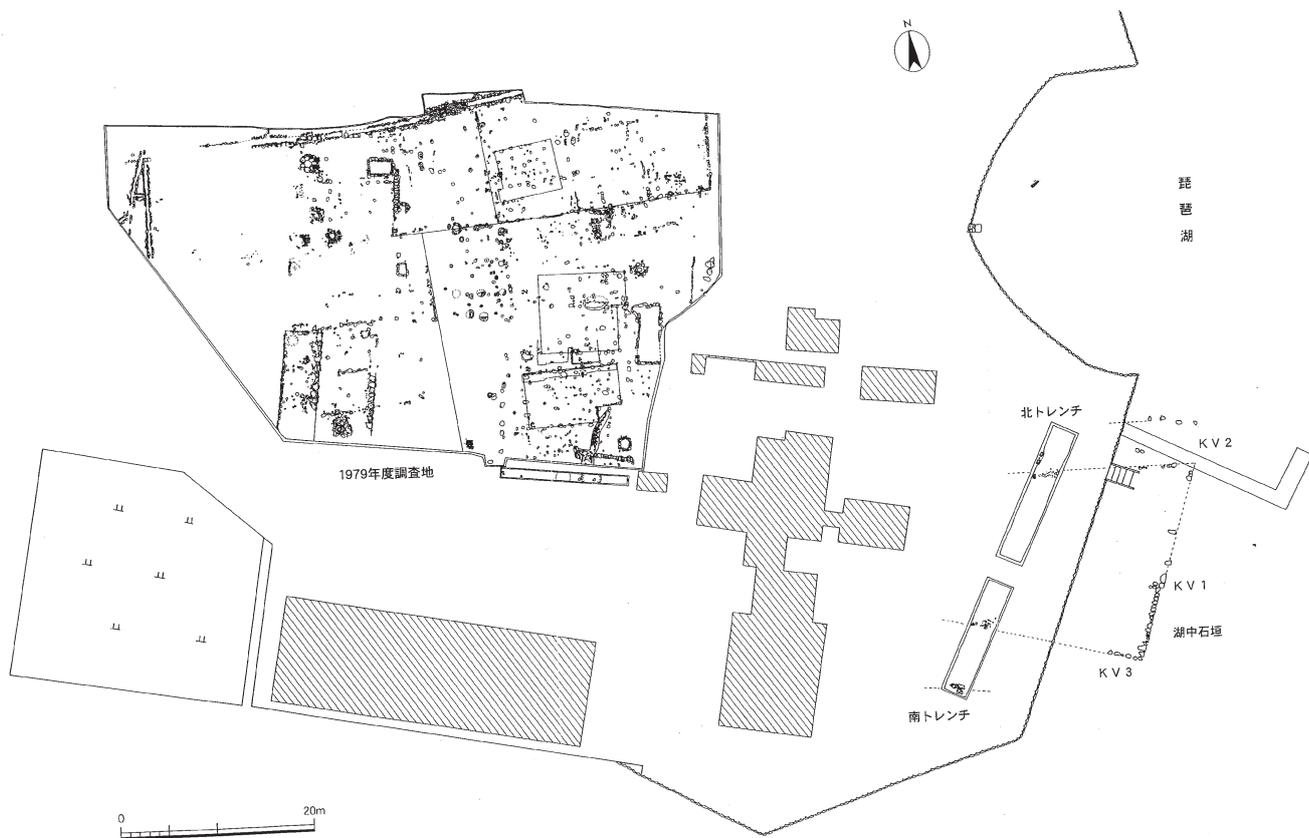


図2 昭和54年度調査遺構配置図（大津市 2008）



● 令和5年度調査

宅地造成工事計画に伴い、発掘調査を実施。推定三ノ丸内。その結果、調査区を南北に貫く長さ約30m、幅約9m堀を確認。堀の法面には石垣が築かれる。そのほか、礎石建物1棟、石組井戸1基、方形石組1基、石積み遺構や溝を確認。

⇒ 幅9mの堀は下阪本周辺で初めて確認

⇒ 数段積み上げられた石垣も初めて確認

⇒ 堀から出土する遺物の年代は16世紀後半 ⇒ 坂本城の外郭か

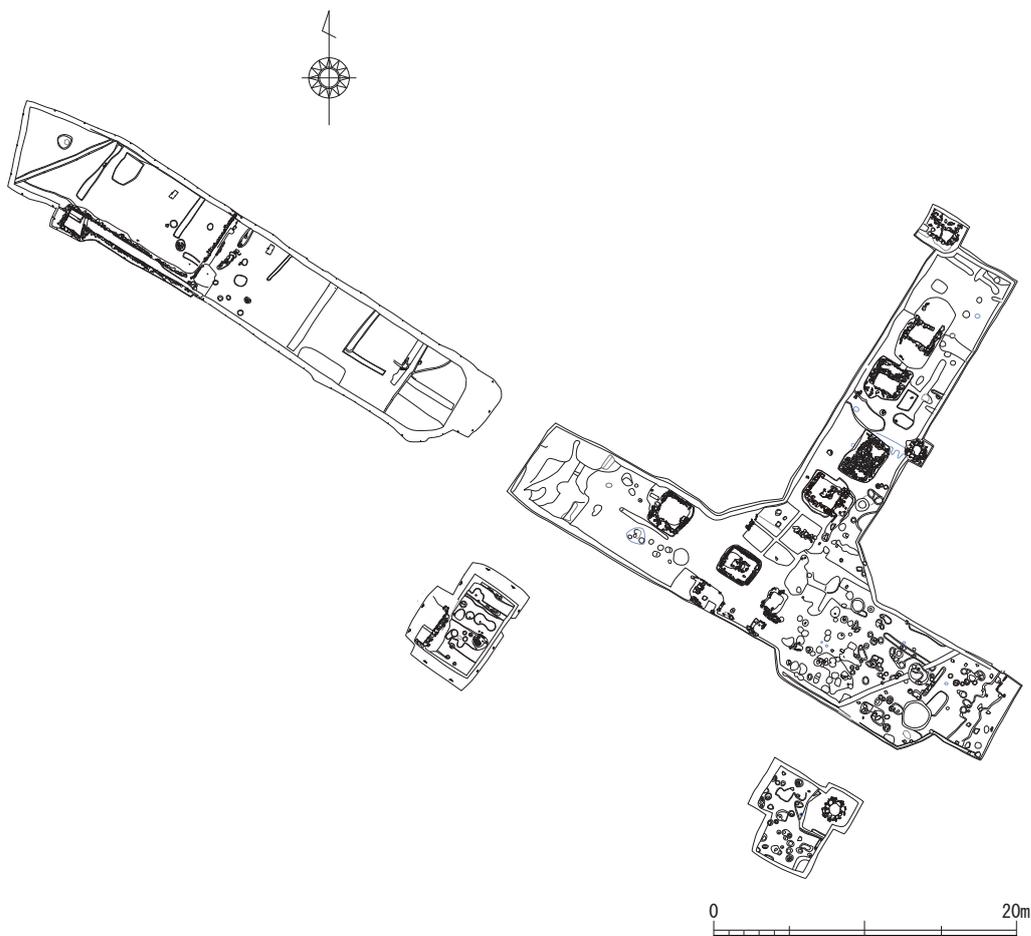
実は・・・

令和5年度調査地の西側隣地においても発掘調査実施（令和元年度）

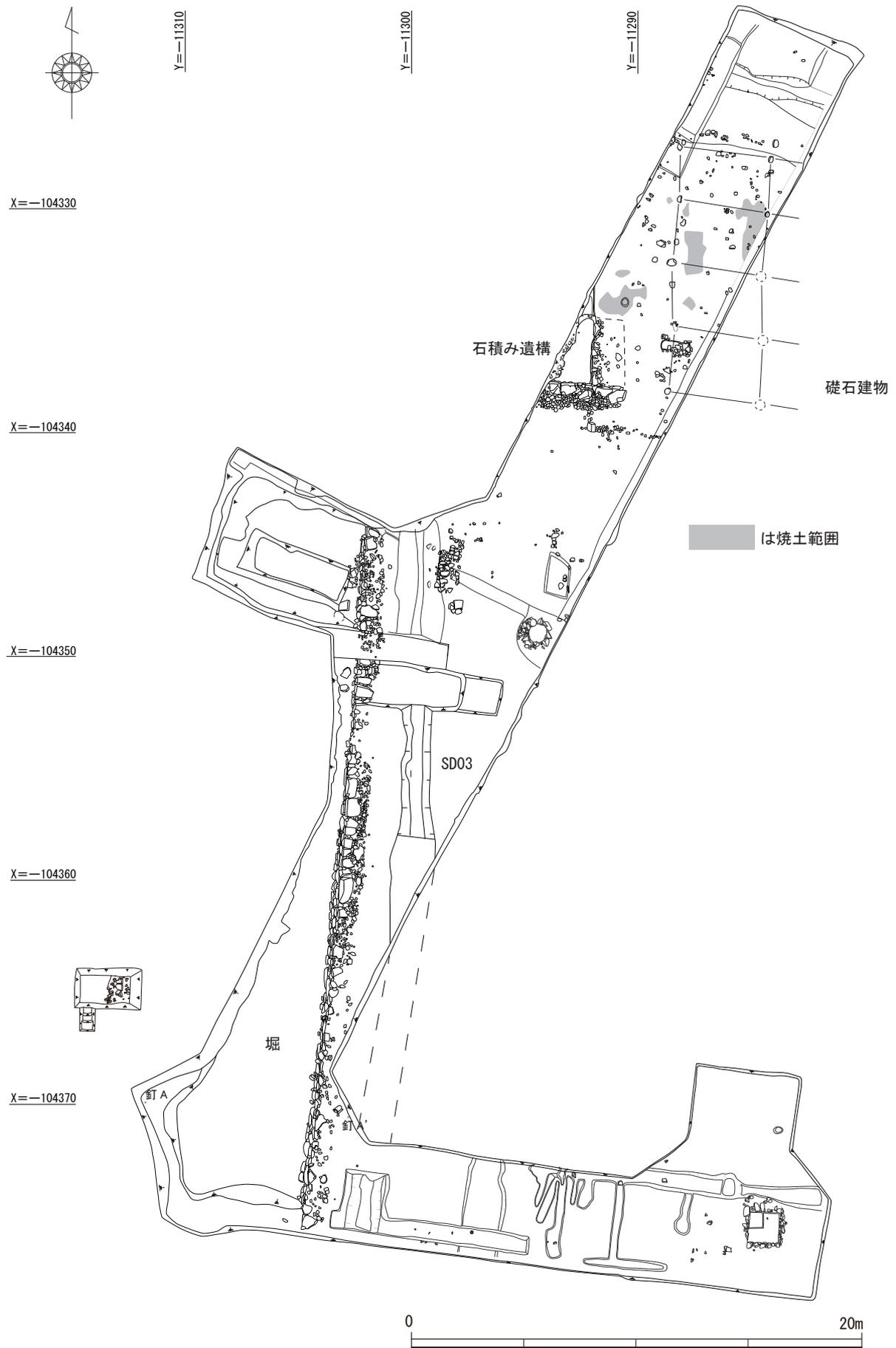
⇒ その際は、15～16世紀前半の中世町屋の遺構群確認

⇒ 坂本城よりやや古い時代の遺構

これらのことから、令和5年度調査で確認された遺構が坂本城の遺構である可能性が非常に高く、坂本城の縄張りを見直す必要が生じる。



第4図 令和元年度調査遺構配置図（大津市教育委員会 2022より引用）



第5図 令和5年度調査1区遺構平面図

#### ●坂本城の縄張り復元

以上の調査成果を踏まえて、坂本城の縄張りの再構築を試みた。

⇒令和5年度調査地以西で確認される遺構は、正方位から東へ約30°振れている

⇒一方、令和5年度調査で確認されている遺構は正方位

⇒昭和54年度調査で確認されている遺構も正方位

⇒周辺の地形を見てみると、令和5年度調査以西と以東で異なる

⇒今までとは異なる**新たな坂本城の縄張り**が見えてくる

#### 4. 坂本城跡の今後について

令和5年度調査地と昭和54年度調査地を適切に保護し、国史跡指定を目指す。文部科学大臣への意見具申（実質の国史跡指定への申請）を令和7年2月に行う。その返答は**令和7年6月頃**の予定。

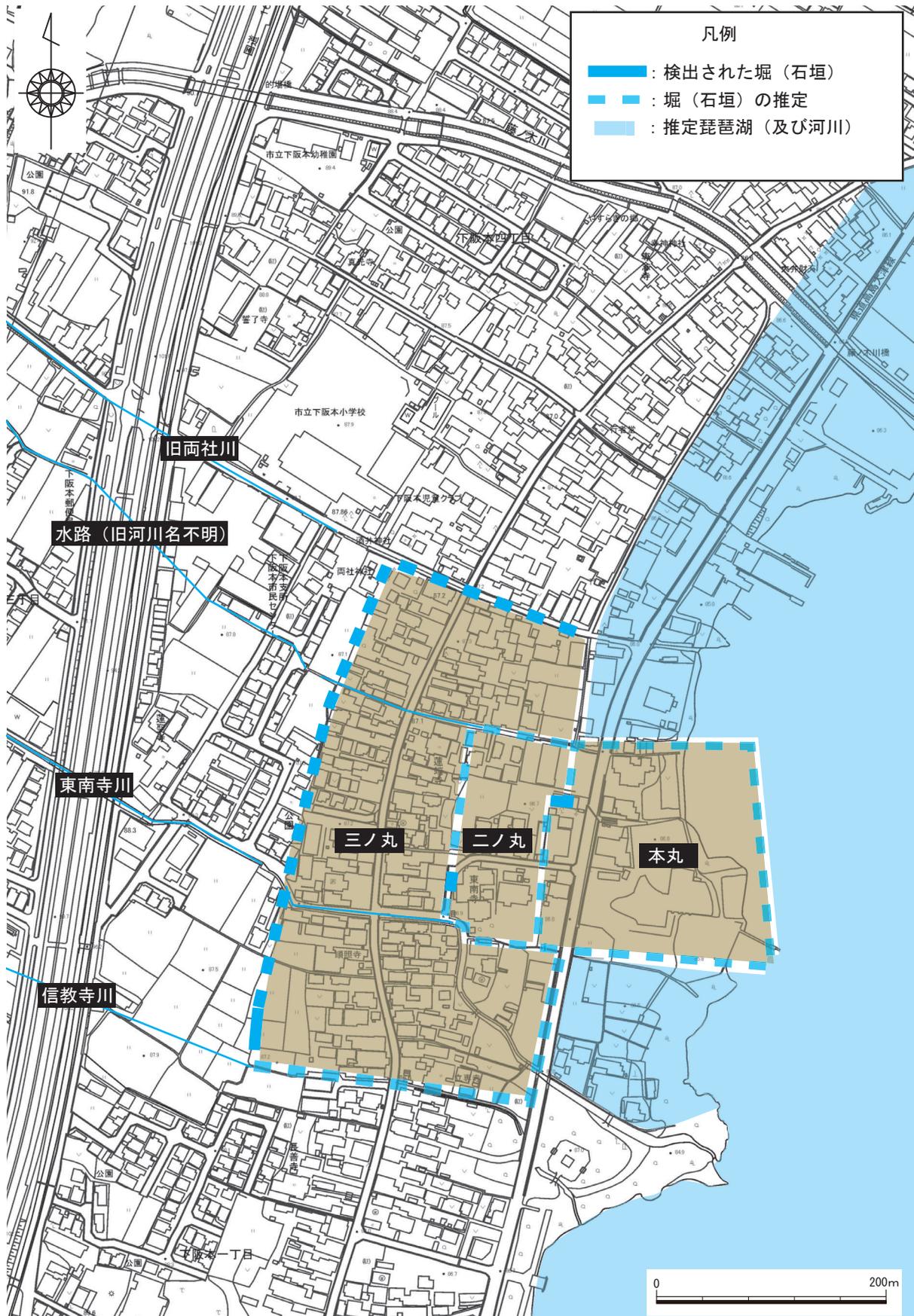
大津市としては、坂本城跡の価値と魅力を発信することに努める。

→今年度はリーフレットの作成等を行う予定

随時、イベント等を開催したいと考えている

#### <参考文献>

- ・津田幸種 1964 『坂本城誌』
- ・大津市 1980 『新修大津市史』 第4巻
- ・大津市 1980 『新修大津市史』 第7巻
- ・大津市教育委員会 2008 『坂本城跡発掘調査報告書』
- ・大津市教育委員会 2019 『坂本城跡発掘調査報告書』
- ・大津市教育委員会 2020 『坂本城跡発掘調査報告書』
- ・大津市 2023 『坂本城跡出土瓦の再整理』  
大津市埋蔵文化財調査報告（160）
- ・滋賀県教育委員会 1996 『織豊期城郭基礎調査報告書1』
- ・土山公仁 1990 「信長系城郭における瓦の採用についての予察 - 同范あるいは同型瓦を中心に - 」 『岐阜市歴史博物館研究紀要』 第4号
- ・木戸雅寿 1994 「安土城出土の瓦について - その系譜と織豊政権における築城政策の一端 - 」 『織豊城郭』 創刊号
- ・松下 浩 2023 「坂本城の構造」 『織豊城郭』 第20号



第6図 坂本城跡想定縄張り復元（新）